かぜ 緑風

2019年12月15日発行
No.46
早稲田大学本庄高等学院通信
発行：早稲田大学本庄高等学院　発行人：半田　亨　〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】https://www.waseda-honjo.jp

教師は生徒に教えを残す

学院長　半田　亨

遥か彼方にある自分の高校時代と現在の本庄学院の様子を比較すると、学院生が本当にうらやましく思います。自分が今の学院生だったら、経済的に可能な限り、色々なプログラム全部に応募していたことでしょう。そもそも、私の高校時代に「国際交流」などという言葉はありませんでした。留学する生徒はいましたが、現在の「トビタテ」のような留学支援システムもなかったため、経済的に豊かな者に限られていました。しかし、授業に関しては、ITやネットワークといった教育環境の違い、あるいはアクティブラーニングなどの授業法の変化はあっても、根本は同じで、当時とさほど変わっていないように思います。

私の母校は東北地方の進学校でした。学院と同じく校則もゆるく、私服でした。男子校から共学になって間もない学校でしたので、女子が少なく、10クラス中共学は4クラスだけでした。私は3年間男子クラスでした。稲稜祭と同じく、9月に行われる文化祭には全校生徒が命をかけて頑張っていました。文化祭が終わると3年生はすぐに受験モードに心を切り替えます。その切り替えは見事でした。理系のクラスでしたので数学や物理の授業が多かったのですが、先生の解答を批判して見事な解答を黒板で披露する猛者もいました。

今ではだいぶ当時の授業の記憶も薄れていますが、3年時の現代文の先生の授業だけは何故か鮮明に覚えています。理系クラスでしたので、国語や社会科の授業ではほとんどの生徒が「内職」（こっそり、数学や理科の勉強をしている）をしていました。この授業も例外ではなく、たぶん、私のクラスでのこの先生の授業の評価は低かったのではないかと思います。私はどうしたものか、この先生の授業が好きで集中して話を聞いていました。私は気の弱い人間なので、内職に徹することができず、「誰も授業を聞いてあげないのでは、先生が可哀そうだ。自分だけでも聞いてあげよう。」と思ったのが最初だと記憶しています。でも、授業を重ねるうち、段々この授業が面白くなっていきました。

特に印象に残っているのが、評論に対する授業です。使った教科書がどこのものだったかは覚えていませんが、加藤周一の「日本の庭」を扱った際に、この先生がお話した桂離宮と修学院離宮の比較に関する内容はずっと心に残りました。どうしても、彼の話の中身を確かめたくなり、大学に入ってから両離宮見学の許可を取って、実際に京都へ行きました。加藤のコラム「夕日妄語」を読みたくて朝日新聞を購読していました。また、森有正の「遥かなノートルダム」の授業のあと、もっと読みたくなり、大学に入ってからまさに“病膏肓に入る”状態、結局この本を含む全集を古本屋で購入し、全部読みました。彼が訳した哲学者アランの「わが思索のあと」も読みました。「このような考え方・視点もあるのだ」ということを知ることが楽しくて、小林秀雄をはじめ、多くの評論家の文章を読みました。

本来やらなくてはならない数学の勉強をせずに読書ばかりしていたのですから、その当時の自分の成績は知れています。また、あんなに読んだのに、たいして活かされていない現在があるのは、自分の能力のなさです。

今、教師をしていて、さらに自分の教師人生のゴールが見えてくるにつけ、当時の国語の先生のことがよく思い浮かぶのです。自分は、関わった生徒たちに対して、何をメッセージとして残せるのだろう?と。今はもう、この先生の名前すら覚えていませんが、授業の内容は克明に覚えています。「自分が話したことがひょっとしたら生徒の今後に影響を与えているかもしれない」、自分の言葉に責任を持たなければならないと自戒するこの頃です。

「みんなのおかげ」

稲稜祭実行委員長　上田　武蔵

みなさん、こんにちは！今年度の稲稜祭は、準備期間から当日まずっと校舎前が工事中だったり、昨年度よりも段ボールの仕入れが困難になったりと、例年にも増して多くの問題を抱えていました。しかし、それら問題を乗り越え、当日は本当に最高の稲稜祭をつくることが出来ました。これらの背景には、本当に多くの人が協力してくれました。稲稜祭実行委員もその一つです。僕たち実行委員の仕事は非常にたくさんあります。しかし、実行委員が稲陵祭に向けて何をやっているのか、多くの人は知らないと思います。なので、ここで少しだけ説明させて下さい。稲稜祭実行委員はおよそ半年後の稲稜祭に向けて、4月に49人で発足しました。毎年、3年生が中心となり、各パートに別れて活動します。1年生や2年生の中には、次は自分たちの代だと毎年続けて実行委員になる生徒もたくさんいます。現に僕は3年間やりましたし、今年度は3年生18人のうち僕を含めた9人が3年連続で実行委員をやりました。(笑)

仕事内容は、全校生徒にアンケートを実施したり、各クラスの企画の決定をしたり、イベントを考えたり、パンフレットやWebページを作ったり…夏休みには、美術パートを中心に、学院訪れて校内装飾の製作を行いました。実行委員の仕事はまだまだ数え切れないほどあります。言い方を悪くすると、雑用のような仕事もたくさんあります。しかし、その分、稲稜祭を自分たちで一から作れますし、この学校は生徒主体でやらせてくれるので、本当にやりがいがあります。その一つの例として、今年度は、クラス企画賞を例年よりも盛大にやりました。大きな投票ボードを作成し、来校者に「一番良かったクラス」へ投票してもらい、1位のクラスには優勝商品としてハーゲンダッツをプレゼントしました。各クラス、自分たちだけでなく、来校者にも楽しんで頂けるように様々な工夫をし、例年にも増して盛り上がったと思います。また、今年度の稲稜祭限定ボールペンは、たくさんの方に購入して頂き、2日間で400本を完売することが出来ました。さらに、今年度はステージでのパフォーマンスが、例年と比べ、ほとんど時間通りに進めることが出来ました。

さて、今年度は「紺翔」というスローガンを掲げました。この2文字には、「紺碧の空にみんなの想いが大きく羽を広げて、高く飛んでほしい」という思いが込められています。今年度は幸いにも天候に恵まれ、紺碧の空の下で当日を迎えられました。ステージでパフォーマンスを披露した人、クラスの企画に積極的に協力した人、部活の活動を懸命に行った人、様々な企画やパフォーマンスを楽しんだ人など、それぞれが稲稜祭を通して見た風景は全く違うと思います。しかし、そんな中でも、多くの生徒が、個性豊かに、それぞれの想いを空高く羽ばたかせてくれたのではないでしょうか。そして、みんなが共通して持っていた「最高の稲稜祭にしたい」という想いは一つになり、大きな羽を広げて僕たちを包んで、最高の稲稜祭へ導いてくれました。実行委員長として、多くの人が最高の稲稜祭だったと思ってくれていたら幸いです。そして、その思いが、僕がそうだったように、伝統としてこれからの学院にしっかりと受け継いでいって欲しいと思います。

僕は、後夜祭でステージに立ち、みんなの顔を見た時、「ここにいるみんなでこんなに素晴らしい稲稜祭を作ったんだ。みんな本当にありがとう！」と思いました。もし、ここにいる誰か一人でもいなかったら、今年度の稲稜祭はまた別のものになったかも知れません。もしかしたらこんな素晴らしい稲稜祭に出来なかったかもしれません。この奇跡のような成功が出来たのは、みんなのおかげだし、家族のおかげだし、先生のおかげだし、本当にいろんな人のおかげだと思います。とともに、ステージから見たあの時の学院生の顔は、本当にいきいきと輝いていました。「日本パワーってすごい」と思いました。僕たちは、ありがたいことに大学受験のない環境の中にいます。きっとこの学院で育ったからこそ、将来、社会のためになる何かを学んでいるはずです。僕は、本当にこの学院に入って本当に良かったと思います。学院生の将来の活躍を楽しみにしていて下さい。

最後に、第38回稲稜祭は大成功に終わることが出来ました。これは、先生方、事務所の職員の方々、保護者の皆様を初め、多くの人からのご支援やご協力があってこそだと思います。稲陵祭に関わって下さった全ての方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。来年以降も素晴らしい稲稜祭が開催されることを心よりお祈り申し上げます。

Coffee Break

今の高校1年生の多くが社会人になる2025年には、世界はどうなっているのだろう?

大規模な戦争や天変地異が起こって世界が滅亡の危機に瀕していないことをまず祈るばかりだが、その最悪の事態は免れたとしても、やはり世界は大きく変わっているだろう。まず確実に変わるのは、今よりももっともっと情報産業社会化が進み、野口悠紀雄氏の近著のタイトルを借りるならば「データ資本主義」が世界を覆うようになるだろう。野口氏によれば、データ資本主義とは、文字通り、お金や生産手段ではなく、データを資本とする経済体制のことであるが、ここで重要なのは、そのデータが、我々が従来扱ってきたようなデータではなく、いわゆるビッグデータであることである。ビッグデータという言葉は私も知ってはいたが、野口氏のこの本によって、それが、現在の個人が日常的に扱っているデータの10億倍の規模のものであり、その点において従来のデータと同列に論じることができないものであることを教えられた。そして、だからこそ、そのビッグデータとAI（人工知能）が結び付いたとき、人類がこれまで経験したこともなければ、現段階では想像することすらできないような何かが起こり得るのである。それは、薔薇色の未来なのか、それとも人間を人間でなくしてしまうような何かなのか？今の高校1年生の話に戻せば、彼らが就活をする頃には、仕事のあり方も大きく変わっているかも知れない。おそらく、いわゆるプラットフォーム企業が更に大きな力を持つようになり、現在は存在しない職種も続々と誕生しているだろう。学院生の皆さんには、校歌にも謳われている進取の精神を発揮して、時代の変化をいち早く見抜き、これからを生きる人間にとって幸福とは何か、ということを真剣に考えていって欲しい。以上、秋の夜長に考えたこと。

（J）

修学旅行を振り返って

3年生は10月に韓国・台湾・中国の3コースに分かれて修学旅行へ行きました。

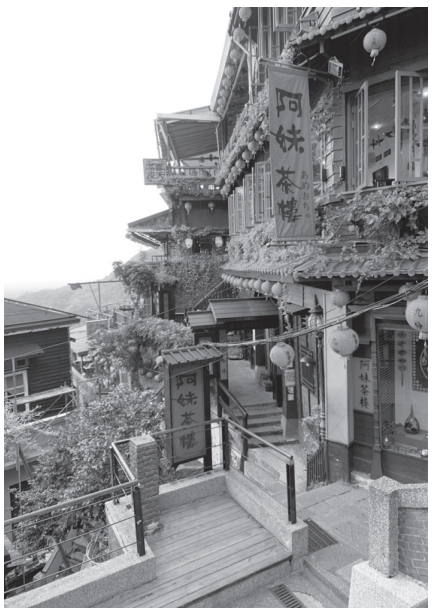
台湾への修学旅行

3年E組　福田　渉

今年の台湾コースの修学旅行は飛行機の遅延というトラブルから始まり、修学旅行が無事に終わるかと不安の中始まりました。しかし、台湾に着くとそれは杞憂となり、とても充実した旅が待っていました。

修学旅行2日目の九份散策では台湾の伝統的な街並みを体感したり、日本ではなかなか見ることのできない食べ物を食べたりと班ごとに思い思いの時間をすごしました。その後の天燈上げでは各自、天燈に願い事を書き、空に天燈を上げました。多くの人が初めて経験したことだったと思います。このように二日目は台湾特有の文化に触れたり、初めての体験をしたりなどとても充実した時間を過ごすことが出来ました。

3日目は一日、台中一中との交流でした。はじめはこの交流に不安を感じていた生徒も多かったと思います。しかし、一日、台中一中で過ごすと楽しかったと感じる生徒が多かったのではないでしょうか。そう思うほど、台中一中は素晴らしい学校で生徒の方も非常に親切でした。私たちが朝、台中一中を訪れると非常に温かい歓迎を受けました。その後、授業やクラブ活動でも積極的にコミュニケーションをとってくださり、充実した時間が過ごせました。また、特に学院性の中でも印象的だったのが夜市散策だと思います。学校の前の夜市を台中一中生が案内してくださり、タピオカミルクティーや台湾ならではの食べ物を紹介してくれました。このように台中一中の温かい歓迎のおかげで非常に楽しい交流となりました。また、個人的には海外の友達を作れたことはとても意義深かったと感じています。



交流の翌日は午前中、故宮博物館を訪れ中国や台湾の歴史について学びました。日本ではなかなか見ることのできない迫力のある展示物などが見られ、中国、台湾の歴史の重みを感じることが出来ました。そしてその日の昼からは班ごとに台北市内の自由行動でした。事前に台湾について調べたおかげでどの班も充実した時間が過ごせたと思います。また、台湾の生活や街並みを肌で感じられ、非常に貴重な機会でした。

最終日の朝は忠烈祠で衛兵の交代式を見ました。近くで見るとかなり迫力があり、圧倒されました。その後、空港に向かい、台湾コースの全員が無事に帰国することが出来ました。

今年の台湾の修学旅行は台湾文化に触れ、日本では体験できないことすることが出来ました。どこの料理を食べても美味しく、台中一中の生徒をはじめとする台湾の方々は非常に親切に接してくださいました。きっと多くの学院生が今回の旅行で台湾のことを好きになったと思います。また、台湾コースの大きな特徴である一日を使った交流を経験したことで、日本語の通じない全く異なるバックグラウンドを持った方々とコミュニケーションをとることに楽しさや喜びを感じることが出来たと思います。これは、将来大学や就職先で海外の方と交流するときの大きな強みになることでしょう。このように、非常に実りある修学旅行になりました。

私たちが充実感を持って修学旅行を終えることが出来たのはたくさんの方々の協力があったからです。日本旅行の方や現地のガイドさん、引率の先生、また送り出してくれた家族をはじめ、今回の修学旅行に関わってくださったすべての方に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

韓国での忘れられない5日間

3年D組　新里　尚之

皆さんこんにちは。今回修学旅行韓国班の委員長を務めさせていただいた新里です。ノリで実行委員長になってしまったので本当に心配でしたが、無事に修学旅行を終えれて良かったです。

自分にとって海外旅行は、3年ぶりだったのでとても楽しみにしていました。自分が修学旅行の場所として韓国を選んだ理由は、友達が韓国に行きたかったからというとてもシンプルなもので、私の韓国への興味はそれほど高くありませんでした。

一日目、2時間弱のフライトを経て韓国の金浦空港に到着しました。空港からのバス移動中、外には僕にとって未知な世界が広がっていました。私は小さいころアメリカに在住していたのですが、アメリカの街並みと韓国の街並みは似ているという印象を僕は受けました。金浦空港からバスで約30分、ソウルタワーに到着しました。ソウルタワーは想像以上に高く、ソウルを一望できる絶景を楽しむことが出来ました。

二日目は、韓国の歴史についてたくさん学んだ一日でした。まず最初に、国と北朝鮮の国境付近を訪れました。ここでは望遠鏡を通じて北朝鮮を見ることができるという貴重な経験が出来ました。望遠鏡で北朝鮮を見ていると、畑作業をしている人や、自転車を漕いでいる人たちが見え、皆興味津々に望遠鏡を覗きこんでいました。また、ガイドさんから韓国の人々は、南北統一を願っている人が多く存在しますが、国際情勢的にこの望みがかなえられることは難しいという説明を受けました。私は、韓国と北朝鮮の関係はとても悪いという印象を持っていたので、この説明を聞いて衝撃を受けました。国境付近を訪れた後、私たちはソウルにある戦争博物館を訪れました。博物館内はとても広く、南北戦争で実際に使われた戦闘機や戦車などたくさんの展示物が展示されていました。日本の博物館のスケールより全然大きくて、限られた短い時間で全ての展示コーナーを回ることはできませんでした。この博物館で、国によって、一つの物事に対する考え方が異なるということを改めて強く感じました。この日の夕飯はサムギョプサルでした。私にとって初めてのサムギョプサルでしたが、この世にこんな美味しいものが存在していたのかと思うほどおいしかったです。

三日目は待ちに待った自由行動の日です。私は、男子4人組の班だったのですが、僕たちの班に付き添ってくれる女子大学生の方（名前はスビン）がとても可愛くて班員みな嬉しがっていました（笑）。最初の方は、恥ずかしくてあまり言葉を交わせませんでしたが、徐々に打ち解けていくようになり、みんなで仲良く写真を撮ったり、スビンおすすめの冷麺屋さんに連れていってもらったりしました。自由行動の時間が終わって、スビンとお別れするときはみんな悲しそうにしてました。

四日目は、修学旅行のメインイベントといっても過言ではない安養外国語との交流日です。私は、学校代表として一分間のスピーチを読むこととパフォーマンスの踊りの振り付けのことで頭がいっぱいでしたが、無事に終えれて良かったです。交流では、〇×ゲームと靴塗りを通じて、お互い良い関係を築くことが出来ました。交流時間がとても短かったのが、この修学旅行での唯一の欠点だったと思います。交流後は、漢江の夜景を眺めながらクルーズで夕飯を食べるという、高校生離れのひと時を過ごしました。クルーズ内の豪華さには度肝を抜かれました。また、クルーズ内には写真スポットが多数あって、まさにこれが青春なんだなーと感じました。

最終日は、主に移動でしたがキムチづくりを体験することができました。韓国に訪れる以前は、キムチが好きでしたが、嫌になるほど韓国でキムチを食べて腹を壊した私にとって、キムチづくりは苦い経験でした（笑）。

韓国での修学旅行を通して、日本では絶対できないような貴重な経験が出来ました。また、韓国へ行く前は、テレビで反日デモなどを目にしていたので、韓国人への印象は良いものではありませんでした。しかし、実際韓国に行ってみると、韓国の人々は常に暖かく接してくれて、私の韓国人への印象は大きくなりました。

韓国で過ごした最高の5日間は一生忘れません。このような経験をさせてくれた先生方、そしてJTBの方々には本当に感謝の言葉しかないです。本当にありがとうございました。

私にとっての中国

3年A組　小林　吉美

中国という国は私にとっての母国と言えるだろう。生まれ育ちは日本であるが、両親が中国人であり、また私の国籍も中国である。実際の故郷というのは黒竜江省のハルビンの方になり今回の修学旅行で訪れた北京とは違うのだが、それでも中国の地に降り立つたびにどこか懐かしく感じ、また安心感を覚える。

故宮や天壇などの観光名所や日程の説明はこの場では省略し、主に私自身の感想を述べたいと思う。私は中国人ということもあり、ネイティブ並みとは言わないがコミュニケーションに困らない程度には中国語が話せる。しかし日本にいると両親との会話以外で中国語を用いる機会がなく、話す面で限界を感じていた。そんな中での修学旅行だったため、私は会話スキルをさらに向上させたい、また自分の中国語がどれだけ通用するのか知りたいと思い迷わずこの北京コースを選んだ。もちろん仲の良い友達との相談の結果ではあるのだが。

4泊5日の北京旅行を通して、私は現地の人と出来る限り会話しようと試みた。特に触れておきたいのが、北京大学附属中学の生徒たちとの交流である。英語を話すバディがほとんどであったが、私たちは中国語で会話していた。向こうも英語が苦手ということもあり都合が良かったのだが、私が話すたびに本当に上手だと、ネイティブ並だと褒めてくれた。それだけでも話しがいを感じたのだが、さらにその子が友達に私のことを紹介していくことで、様々な生徒との会話を楽しむことができた。なんと言っても、両親としか話す機会のない私の中国語でも、現地の人との会話で不便を感じないということが本当に嬉しかった。

もうひとつやりがいを感じた点というのが、私が班員たちへの通訳になれたということだ。班員が知りたいことを現地の人に聞き、それを班員に伝えるというだけでなく、私が現地の人たちの何気ない会話から知った面白いことを彼女たちに伝え、中国の、あるいは中国人の魅力的な部分を知ってもらう役目だったと自負しているが、真っ当できたのではないだろうか。その甲斐あってか、班員の人達はみな中国にはまったと私に言ってきた。その言葉を受けて私は中国人として本当に嬉しく感じた。

この修学旅行を通して、再度中国の魅力的な部分を認識できたと思う。私が訪れたことのある場所が北京と故郷のハルビンの方に限られてしまうため、もっと魅力を知るためにも他の地域を訪れてみたいなとも思った。またこの修学旅行後に気づいたこととしては、授業で扱う内容、または人それぞれのプレゼンの内容が中国に関係するものが多いと言うことだ。それだけ多くの日本人が中国に興味を持ち、中国ことを知ろうとしているということだろう。人がその国に興味を持つのは、政治的な問題、外交的な問題がどうであろうと、その人個人の主観に関係しているのだと私は思う。だからこそ、人はその国のものが買いたければ買うし、行きたければ行くのである。

私は日本で生まれ育った中国人だ。日本のことについてよく知っていれば、中国についても人より関係が深い。そんな私が日本で何が出来るかと言えば、もっと多くの人に中国の魅力を伝えていくことではないだろうか。先述した様に、日本人が中国に興味を持っていることを私は直に感じた。中国が今ものすごいスピードで発展を遂げていることを考えると、この先日本国全体が中国と関係を結ぶことは確実である様に思う。そんな時、私は中国と日本の架け橋の様な存在になっていることを期待したい。

スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業の取り組み

-- 2019年度稲稜祭およびＳＧＨ成果報告会　発表内容より --

2015年度に文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けて以来、本学院では「国際共生のためのパートナーシップ構築力育成プログラム」をテーマに、学院内や国内外をフィールドにした様々な研究課題に取り組んできました。

SGHの研究課題というと、夏の国内外フィールドワークを核とした、少人数のコアメンバーによるテーマ型の学習に関心が向けられますが、特定学年全員、もしくは全学年が関わる授業内プログラムもSGH研究課題です。今年度も「国語」「世界史」「政治・経済」「英語」「家庭科」の連携授業で、グローバルな課題に気づき考察できるような話題が扱われています。また「LHR」「総合的学習の時間」等を活用しての「卒論作成指導」「修学旅行での事前事後学習」で、早稲田大学の先生方の手厚いご支援もいただきながら、学年ぐるみで学ぶセッションも複数回実施しました。学年全員が稲稜ホールで講義や学術発表を聴き、発表後に聴き手の生徒から良い質問が複数出るようになったのは、ここ数年の嬉しい変化です。

10月の稲稜祭では、「思い愛隊」によるネパール人道支援のための物品販売やボランティア活動紹介、および５年間の各研究課題で作成した、約30枚の学術発表用ポスターを展示しました。また10月末には、10年以上の交流のあるシンガポールのNational Junior College（NJC）とインドネシアのYogyakarta市の生徒のみなさんをお招きして４日間の「SGH Academic Exchange Week（AEW）」を実施。最終日の11月2日（土）午後には、1年生全員が参加してのSGH成果報告会を開催しました。

成果報告会での生徒発表概要から抜粋し、今年度の取り組みの一端をご紹介します。

■「グローバル社会と人権」（ソウル国際高校との協働学習）

2学年の政治・経済の授業内プログラム。ソウル国際高校と日韓各3名ずつ6名で構成されるチームを10作り、持続可能な社会のためのテーマを各々設定して、4月から11月にかけてオンライン協働研究を行った。報告会では代表1チームが発表し、生徒の人権保障に関するオンライン調査とアンケートに基づいて、日韓両国での状況の比較をし、今後のあり方についての考察を報告した。

■「紡績業を中心とする教科横断型授業」（上海　江蘇省蘇州中学との協働学習）

８月に上海を訪問し、現在の上海の様子と租界の昔の風景を比較しながら個別の研究（「在華紡」「横光利一『上海』」「谷崎潤一郎」「内山完造」）を進めた。また江蘇省蘇州中学の生徒と学術交流を行った。今後もこのような対話を続け、中国の同世代の考えをよく知りたい。

■「インバウンド観光プランの協働学習」（NJCとの協働研究）

観光産業の中でも、ソーシャルメディアが観光客の旅行先の決定にどのような影響を与えるのか、シンガポールと日本のオーバーツーリズムの現状、また、それらの因果関係について着目し、考察する。７月はシンガポールで、また10月は日本で、外国人観光客を対象に対面アンケート調査を実施し、この調査結果を踏まえた考察を報告した。

■「相互訪問とオンライン交流で進める発信型プロジェクト」（Yogyakarta市生徒との協働研究）

「自立と相互支援」をテーマに、インドネシアと日本の人々の価値観やコミュニティー内の人間関係を比較し考察した。ジョグジャカルタでは職業や経歴が異なる８名の市民にインタビューをした。ジョグジャカルタでは必要とする人には誰であっても支援をすることが根付いており、その姿勢が自然災害など非常時の緊急支援でも大きな力になっていることがわかった。

■「国際共生学を踏まえたボランティア活動」

屋久島の海岸2カ所と埼玉県の2カ所、および神奈川県の1カ所で清掃ボランティア活動を行い、世界の海洋ゴミ問題について考えた。海や河川に流出するごみを減らすために、決められたごみ処理方法に従ってごみを捨てることが大切だ。また、ごみ問題の現状をより多くの人に知ってもらい、一人ひとりの意識を高めることも重要だと考える。

■「国際高校生学会の開催」

○HAS2019　参加チーム

今年は「AIの倫理的な活用法」というテーマで、日本、韓国、中国、香港、タイ、ブルガリアからの高校生が、プレゼンテーションと討論を行った。本学院からは「自動運転車の運転における注意喚起」「AIによる信用度スコアのサービス設計の提案」の2本の発表を行った。

○防災サミット2019参加チーム

世界43国、国内校含め114の高校が参加する国際サミットに本学院から初めて参加。「『記憶を未来へ、備えを明日へ』」を軸に3つのサブテーマに分かれて発表と討論を行った。本学院チームは「意識を高める～災害の備えと迅速な避難」をテーマに自然災害に対する防災意識を高めるためのアクションプランを発表し、グループ討論を経て「避難訓練キャンプ」を提案した。

■シニアスタッフ活動

SGHシニアスタッフは本学院がSGHに指定された2015年に発足した生徒チームで、SGH関連の様々な企画の運営や広報活動を精力的に行ってきた。2018年11月に海外６校国内SGH校２校を招いて実施したWaISEC本大会では150名の実行委員が苦労をしながらも見事な連携プレーで会を成功させたが、これは年度ごとのシニアスタッフ活動の「学びのリレー」が結実したものだ。シニアスタッフの代表者が、活動経験を踏まえて後輩へのメッセージを伝えた。

■「学術交流ウィーク」成果報告

10月30日～11月２日の「SGH Academic Exchange Week（AEW）」では、NJCメンバー、Yogyakartaメンバーと、１２名の学院生（AEW Players）が「多文化共生のためのパートナーシップ構築と維持」を大テーマに４日間の集中学習に取り組んだ。ミニ講義聴講と４ラウンドの意見交換、企業（サンデンホールディングス）訪問、学院生活体験を経て、「パートナーシップ」についての考察し、報告した。

理数関連プログラム報告

（2019年5～11月分）

1. 特別講義「これがサイエンスだ！」

学院生の科学への興味のきっかけになるように、主に学院教員による科学特別講義「これがサイエンスだ！」を実施しています。

第1回（5月20日）「ブラックホールが見つかるまで」（物理科：大塚未来先生）

第2回（6月7日）「フィボナッチ数列の不思議」（数学科：根本裕介先生）

（連続２講座）「連立代数方程式の解法とその応用」（数学科：太田洋平先生）

第3回（6月22日）「石油開発に役立てられる技術」（地学科：藤井すみれ先生）

第4回（11月18日）「キリンの模様を数学する」（数学科：堀綾子先生）

第5回（11月21日）「ゲームプログラミングの中の高校数学＆物理入門」（情報科：飯島涼先生）

2. カザフスタンNISアスタナ校の本庄学院訪問

7月11日（木）カザフスタン共和国からNazarbayev Intellectual School（NIS）in Astanaが本庄学院を訪問しました。9:10に稲稜ホールでWelcome Ceremonyを行いました。お弁当のランチの後、神川町のヤマキ醸造へ出かけ、醤油作りワークショップを体験しました。学校に戻り、宥勝寺で茶道部主催の歓迎お茶会に参加してもらいました。

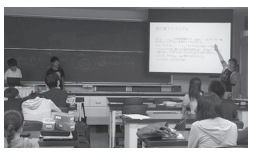
3. Singapore National Junior College（NJC）との交流

NJC訪問を7月17日～25日の日程で実施しました。参加者は3年久家舞子・佐藤絢香・松本綾香・杉本りな子・庄子萌華、1年上杉魁斗・羽鳥寧々です。科学研究分野では基本的に共同研究を軸にして交流が行われます。今年度は「甘い甘酒を作るには？」「淡水エビと環境」「バジルの塩分除去」をテーマにして活動が行われました。

また、NJCの生徒9名教員2名が10月28日～11月2日の日程で本校を訪問し、各種研修・共同研究打ち合わせなどを行いました。

4.「これがサイエンスだ！ゼミ合宿」実施

7月25日（木）から27日（土）に本庄キャンパスでゼミ合宿が行われました。生徒たちは学年の枠を超え、昼間は数学地学・物理パートに分かれ、教科ごとに活動し、夕方は数学科成瀬先生により特別講義「面積の測れない（？）図形」、2日目の午後には早稲田大学とサイトライセンスを契約したMathWorks 社のご協力で希望者対象に特別講義「MATLAB講習会」にてアルゴリズム開発、データ解析、視覚化、数値計算のためのプログラミング環境を体験しました。広大で自然豊かな環境でのフィールドワーク、講義やワークショップ、宿泊がすべて学内で行うことができるのは本学院ならではであり、生徒達もいつも過ごしている本庄キャンパスが研究活動の場となることや、チームで課題解決をすることなど、最終日の発表に向けて新鮮な気持ちで意欲的に取り組んでいました。



5. 創造理工学部本庄プログラム参加

8月5日～7日の日程で本庄市内をフィールドワークの舞台として実施された、創造理工学部英語プログラムに学院生の6名（1年草野柊斗・徳重咲・塚本優美、2年西川なずな・伊藤凪沙、3年富木良）が参加しました。

6. 小笠原研修

今年度は8月26日から31日までの日程で3年竹原孝純・杉本りな子・飯野七夏・畑山美帆・井上絵理・西村味佳、2年小林春香・濱出美里・小沼悠、1年松井小夜子・桔梗琴巳・秋庭健佑・田見愛華が参加しました。母島子ども科学教室は7名の児童が参加しました。「堺が岳登山」「小笠原の水生生物」「小笠原の環境保護（グリーンアノール問題）」の3つのフィールドワークを実施することができました。今までのフィールドワークとは異なった、多様な小笠原の姿を知ることができました。ハイライトの1つの母島でのシュノーケリングは平島沖で行いましたが、帰路偶然にドルフィンスイムをすることができました。父島のナイトツアー・南島フィールドワークをこなし、天候にも恵まれ、すべてのプログラムを滞りなく実施することができました。

7. 国立天文台見学

8月30日（金）に国立天文台三鷹キャンパスを訪問し、国立天文台の最先端研究テーマなどについて、JASMINEプロジェクト長郷田直輝教授、先端技術センター鵜澤佳徳教授、先端技術センター早野裕様に解説していただきました。

プラネタリウム（4D2Uドームシアター）では現在観測可能な宇宙マップを地球から宇宙の果まで3Dによる多様な視点で宇宙の仕組みについて学びました。特にブラックホールの撮影に成功した地球サイズの電波望遠鏡で、楕円銀河M87に潜む巨大ブラックホールとその影の存在を初めて画像で証明することに成功した事例の説明がありました。大型低温重力波望遠鏡（KAGRA）のベースとなったTAMA300の見学では重力波を検知する原理について学びました。先端技術センターではALMA望遠鏡等に使われている電波受信機の組み立て現場を見学しました。赤外線位置天文観測衛星（JASMINE）、口径30m超大型望遠鏡TMT 計画など宇宙のフロンティアに挑む日本の最先端研究について体験した一日でした。

8. Japan Super Science Fair 2019（JSSF）

JSSFは世界最大規模の高校生科学シンポジウムです。今年度は11月3日から5日までの日程で立命館大学琵琶湖草津キャンパスを会場に、22か国44校200名の教員生徒が集合して、研究発表を含む様々なプログラムを行いました。3年畑山美帆・植田歩実乃（立命館高校SSH重点枠人材育成プログラム）杉本りな子・松本綾香（NJCとの共同研究）が参加しました。

9. 地域貢献（5月22日以降）

(a) 河川研究班の活動（2019年度メンバー：3年新井律子・向姫寧・小澤七菜・井上絵理・内田南・松本綾香・飯野七夏、2年加藤望佑、1年千喜良公平・山本芽依・城島美晴・秋庭健佑・赤羽和子）

- 藤田小での第1回講義（5月22日）「目の秘密」をテーマに講義を行いました。
- 藤田小との合同河川調査（5月30日）小山川・元小山川の河川調査（生物・水質）を行いました。
- 藤田小での第2回講義（6月19日）プレゼン技術の講義を行いました。
- 藤田小での第3回講義（9月25日）オイラーの多面体定理・表面張力について扱いました。

- 藤田小での第4回講義（10月23日）磁石と電気の関係、電磁誘導について扱いました。
- 藤田小との合同河川調査（11月6日）小山川・元小山川の河川調査を行いました。
- この後、1月8日、1月29日、2月5日、2月12日を予定しています。

(b) 市内小学校講師プログラム

2018年度から早稲田大学本庄プロジェクト推進室・本庄市教育委員会との連携で、市内小学校の総合学習講師を行っています。

- 仁手小での講義（6月12日）磁石と電気の関係について扱いました。
- 南小での講義（7月10日）本庄市内の河川に生息する生物や外来種パックテストを用いて水道水・男堀川の比較実験を行いました。
- 旭小での講義（10月16日）永久コマの実験を行いました。
- 西小での講義（10月30日）磁石と電気の関係、電磁誘導について扱いました。
- 児玉小での講義（11月12日）5時限目は水と人間の関わり、水汚染の問題を講義し、6時限目にパックテストを用いて水道水・男堀川の比較実験を行いました。
- このあと、共和小での講義（11月20日）、北泉小での講義（12月10日）、東小での講義（12月11日）を予定しています。

(c) グローバルキャンプin かみかわ北泉小での講義

神川町が早稲田大学国際教養学部で学ぶ留学生を招き、地域小学生の英語教育に役立てることを目的としたプログラムで、小学生と留学生の橋渡しとして本庄高等学院生がボランティアで5名（2年佐野百美、3年富木良・和久津寛人・鈴木心愛・吉川知輝）参加しました。

(d) 市民総合大学で講義

河川研究班が、7月22日子どもたちに講義を行いました。場所は本庄市児玉文化会館（セルディ）、テーマは「100万年前の虫を探そう！～コハクの秘密～」です。参加児童は36名でした。

教員コラム

木もれ日

夜空を眺めて科学を感じてみませんか

影森　徹

季節の訪れを皆さんは何で感じるのだろうか。何気なく見ている月も、ちゃんと季節の訪れを知らせてくれる。だんだん寒くなってくると月の色は徐々に白さが増し、同時に南中高度も高くなる。真夏の太陽と同じくらいの高さになると季節は冬の12月である。この季節の満月は格別だ。東よりやや北の方角からまん丸の巨大な月が浮かび上がってくる。赤みを帯びた月は昇るにつれてまぶしいほどに輝き始める。中秋の名月は風情がありとてもきれいだが、真冬の満月は力強さを感じる。

ところで、昔から歌われている「月」という歌の歌詞に「盆のような月」という表現がある。現代の私たちは、月は球形であることを知識として知っている。では、この歌を作った人は、月は球形ではなくオセロのような平たい形をしていたと思っていたのだろうか。そんなことはなさそうである。満月をよーく見てほしい。間違いなく満月は盆のようである。何故満月は平面のように輝くのだろうか。答をすぐに知りたいところかもしれないが、じっくり考えてから、調べてみてほしい。仮説が正しかった時の充実感は格別なものであるから。

月の他にも夜空は季節を教えてくれる。そう、星座である。夏の大三角形、冬のダイヤモンド、春の大曲線。天の川は一年じゅう見えるが、季節により見える方角が変わる。大航海時代に星は何も目印のない海で季節と行く先を教えてくれた。

天体は、我々に色々なことを教え、色々なことを考えさせ、色々なことを想像させてくれる。1969年7月にアポロが月面に着陸してから50年になる。その記念すべき年2019年4月に人類は初めてブラックホールの撮影に成功した。NASA誕生からちょうど60年の記念すべき年だった。現在は有人月面着陸プロジェクト「アルテミス」計画が進行中である。神秘に満ちた近くて遠い夜空の不思議がまた一つ解き明かされるかもしれない。

生徒達の活躍

◆ラグビー部
国体県大会
1回戦　5月25日(土)
慶應志木　63(28/35)－0(0－0)早大本庄
順位戦　6月1日(土)
城西川越　43(21/22)－21(7/14)早大本庄
第6回全国高等学校7人制
ラグビーフットボール大会埼玉県予選
1次トーナメント(Eブロック)　6月15日(土)
・1回戦　城西川越14(0/14)－5(0/5)早大本庄
・準決勝　早大本庄 27(10/17)－5(5/0)西武文理
第99回全国高等学校
ラグビーフットボール大会埼玉県予選
1回戦　9月7日(土)
早大本庄24(17/7)－19(7/12)川越
2回戦　9月21日(土)
早大本庄127(68/59)－0(0/0)日高
3回戦　10月14日(月・祝)
川越東59(33/26)－7(7/0)早大本庄
◆正月の新人戦県北予選以来、15人制の公式戦では勝利からずっと遠ざかっていた早大本庄でしたが、最後の大会、1回戦を苦しみながらも勝ち進み、2回戦は完勝、気合十分で3回戦に臨みましたが、残念ながら、実力に勝る川越東に敗れました。しかしながら、ノーサイドの笛が鳴るまで死力を尽くして闘った、主将の茂木陸生君(3D)をはじめとするすべての選手、マネージャー達を讃えたいと思います。また、応援部の皆様には、今年もまた、心のこもった応援をどうも有難うございました。12月中旬からは中谷星偉君(2H)率いる新チームの新人戦が始まります。あらためて応援よろしくお願い致します。ワールドカップを観てラグビーに興味を持った人、自分でもやりたくなった人、ラグビー部はいつでも入部OKですので、是非グランドへ見学に来て下さい!!待ってます!!

◆ソフトテニス部(女子)
新人大会北部支部予選会・女子個人戦
(9月14日@熊谷さくら運動公園)
ベスト8　沖山結衣(2F)・樋口凜(2A)ペア
ベスト20 岡本百葉(1F)・今泉菜々(1F)ペア
※上記2ペアが県大会出場権を得ました。
本庄市民大会・一般女子の部
(11月3日@本庄市若泉運動公園)
優勝　岡本・今泉ペア
埼玉県新人大会・女子個人戦
(11月11日@熊谷さくら運動公園)
ベスト32　岡本・今泉ペア

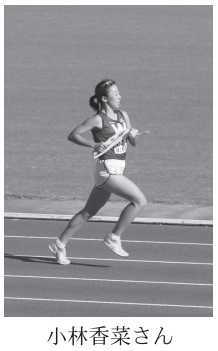
◆ソフトテニス部(男子)
新人大会北部支部予選会・男子個人戦
(1次:9月13日、2次:15日@熊谷さくら運動公園)
優　勝　北原辰徳(1C)・玉貫陽都(2E)ペア
準優勝　吉江隆一朗(2H)・河野椋也(2E)ペア
ベスト32　山田啓太(2F)・中島崚輔(2C)ペア
※決勝戦は学院生同士の対決となりました。
上記3ペアが県大会出場権を得ました。
新人大会北部支部予選会・男子団体戦
(9月18日@熊谷さくら)
第4位　1回戦：早大本庄③－0本庄、
2回戦：早大本庄の不戦勝、
3回戦：早大本庄1－②小川、
3位決定戦：早大本庄1－②熊谷。
本庄市民大会・一般男子の部
(11月3日@本庄市若泉運動公園)
優　勝　北原・玉貫ペア
※一般女子の部で岡本・今泉ペアが優勝し、学院生の男女優勝となりました。
埼玉県新人大会・男子個人戦
(11月10日@狭山智光山公園)
ベスト32　北原・玉貫ペア、吉江・河野ペア。
埼玉県新人大会・男子団体戦
(11月14日@熊谷さくら)
第3位　1回戦:早大本庄③－0豊岡、
2回戦:早大本庄②－1武蔵越生、
3回戦:早大本庄②－1上尾、
準決勝:早大本庄0－②昌平。
※2年ぶり2回目となる県大会ベスト4(第3位)です！この結果により、県インドア大会(12月)、埼玉カップ(3月)の出場権を得ました。

◆硬式テニス部(男女)
・埼玉県新人大会 北部地区予選
(1次予選 8月19日・20日、2次予選9月6日・7日、県大会出場分)
男子シングルス 優勝 武樋力哉、3位 滝澤開登、5位 三森康平、6位 藤井祐弥、8位 野原琢磨、11位 湯原悠登、19位 高 駿
女子シングルス 優勝 長谷川柚希、9位 大竹媛子
男子ダブルス 優勝 武樋・滝澤、準優勝 藤井・高 7位 湯原・平山
女子ダブルス 4位 葛西・大竹
・埼玉県高等学校新人大会 個人(9月28日～30日)
男子シングルス ベスト64 滝澤開登、野原琢磨、湯原悠登
女子シングルス ベスト64 長谷川柚希、大竹媛子
男子ダブルス ベスト16 武樋・滝澤
女子ダブルス ベスト32 葛西・大竹
・埼玉県高等学校新人大会 団体(10月26日～28日)
男子 5位
女子 ベスト16
・埼玉県北部地区団体戦(11月9日)
女子Aチーム 優勝
・高校1年生チーム対抗戦(11月14日・17日)
女子 3位

◆卓球部
2019年度学校総合体育大会
卓球競技埼玉県予選会
2019年6月8日(土)　上尾運動公園体育館
女子ダブルス
松田和美(3C)・竹内ひかり(3B)組　ベスト16
令和元年度北部支部卓球大会
2019年9月27日(金)　深谷ビッグタートル
男子シングルス
久古純汰(2B)　準優勝

◆陸上競技部
総体では若林さん、関さん、栗島さんと男子4x100mリレーが関東に出場しましたが悔しくも全国への出場を逃しました。その悔しさもバネに埼玉県選手権では3年生女子の二人が円盤投と競歩で関東選手権への出場を果たし、国体県予選では1年生が活躍しました。秋の県新人選でも多くの部員が自己ベストを出し、県大会での入賞者も多く、2年生の吉田さんと県チャンピオンとなった若林さんが関東大会に進みました。若林さんの関東での入賞と高校駅伝での長距離ブロックの好走で秋シーズンも終え、現在部員達は次に向けて冬季練習に励んでいます。

若林　樹さん

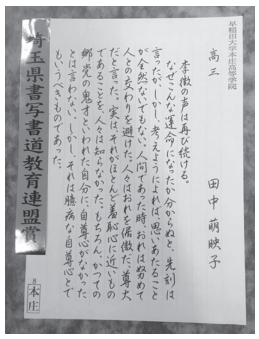


小林香菜さん

主な戦績（県大会以上入賞者）
関東高等学校陸上競技対校選手権大会(6/14~17)
男子400mH　第7位 若林樹(2) 1’00”79
女子円盤投げ 第8位 栗島優都紀(3) 35m28
埼玉県選手権大会(6/21~23)
女子5000mW 第7位 野村音々(3) 27’28”61
女子円盤投げ 第4位 栗島優都紀(3) 37m03
国民体育大会県予選会(8/11)
少年B男子100m　第5位　高田和(1) 11”05
第7位　髙橋音雄 (1) 11”12
埼玉県高校新人陸上競技選手権大会(9/27~29)
男子100m 第8位 高田和(1) 10”98
男子800m 第7位 小藥空(2) 1’59”72
男子400mH 優勝 若林樹(2) 54”33
男子棒高跳 第3位 吉田英晃(2) 4m20
女子5000mW 第6位 牧依瑠香(2) 28’36”37
関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会
(10/19~20)
男子400mH 第4位 若林樹(2) 54”57
全国高等学校駅伝競走大会埼玉県予選会
男子の部 19位 早大本庄 2°21’19”
(野口(3)－小藥(2)－服部(1)－関根(3)－中島(3)－市川(2)－川野(3))
女子の部 23位 早大本庄 1°24’45”

◆ワンダーフォーゲル部
日帰りでの定例山行と夏山・秋山合宿を中心に，部員14名で活動しています．定例山行と秋山合宿は，関東山地での日帰りおよび1泊2日とし，夏山合宿は北アルプスに縦走登山に出かけます．日帰りでも5～6時間は歩く健脚コースを設定しています．
夏山合宿は前泊したものの，登山当日の朝になっても天気が回復せず，残念ながら山行を中止しました．秋山合宿は，南アルプスの山並みや富士山を頂上から眺めることができ，晩秋の紅葉の中を歩きました．今年度に企画した山行は，次の通りです．
4／28　新歓山行　武甲山
5／26　定例1回　陣見山
6／16　定例2回　赤城山
8／20～23　夏山合宿　北アルプス　白馬岳
(雨のため中止)
9／22　定例3回　榛名山(雨のため中止)
11／3～4　秋山合宿　雲取山〔三峰神社から鴨沢バス停まで〕

◇書道部
第58回埼玉県硬筆展覧会
2019年6月22日
埼玉県書写書道教育連盟賞
田中　萌映子
川原　さくら
佐々木　彩佳



推薦賞
大塚　春佳
徳田　愛結

特選賞
黒沢　のはな
篠原　奈帆

◇囲碁将棋部
第43回全国高校総文祭(8月佐賀)
将棋部門大会男子個人　第5位　2年近藤圭
囲碁部門大会女子個人　第14位　1年越後美波
第39回全国高校将棋王将戦埼玉大会(11月)
男子個人戦A級　優勝(2年近藤圭)　全国大会進出(福島県にて2月に開催予定)
第35回関東高等学校囲碁選手権大会埼玉県予選
(11月)　女子個人　準優勝(1年越後美波)　関東大会進出(栃木県にて1月に開催予定)
第32回全国高校将棋竜王戦埼玉大会(6月)
男子個人戦A級　準優勝(2年近藤圭)

◇第13回全日本高校生模擬国連大会 参加
(11月16日・17日東京ビッグサイトタイム24ビル)
實田敬佑(2A)
市川優人(2E)